※令和４年度以降入学生用

学校番号	107

令和８年度　音楽科

教科	音楽	科目	ソルフェージュ（視唱）	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	高校生の音楽２（教育芸術社）						
副教材等	コールユーブンゲン（大阪開成館）コンコーネ５０番（全音）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・　この授業では、教科書、プリントを綴じるためのファイルと筆記用具コールユーブンゲンを持参してください。
・　コールユーブンゲンによる視唱練習と新曲視唱の実践問題を行います。

ソルフェージュの力は、授業時間のみの学習で高めることはできません。毎回の授業から次の授業までの日々の自宅での反復練習や振り返りが必要です。視唱の予習・復習を粘り強く家庭でも学習することによって、ソルフェージュＢ（聴音）の力も同時に身につきます。1 年生で培った基礎をさらに伸長させるため、十分に予習・復習を行い授業に臨んでください。

2　学習の到達目標

ソルフェージュに関する学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

【知識及び技能】視唱、視奏及び聴音に関する知識や技能を身に付けるようにする。

【思考力・判断力・表現力等】音楽を形作っている要素の働きやその効果などに関する思考力、判断力、表現力等を育成する。

【学びに向かう力、人間性等】音楽性豊かな表現をするための基礎となる学習を大切にする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	視唱 A(コールユーブンゲンと新曲視唱)に関して、専門的な音楽に関する大切な資質･能力として、音楽理論の知識を基本とし、音楽を形作っている要素を正しく読み取り歌唱することについて理解を深めている。知識 正しい音程やリズム、拍など楽譜に書かれたことを歌唱で表している。技能	音高、リズム、フレーズのまとまりなど音楽を形作っている要素の働きやその効果などに関する思考力、判断力、表現力を身につけ、それらを正しく捉えて視唱することにとどまらず、それらを音楽性豊かな表現の追求に活用できるものにできるよう、楽譜を見て、音楽を形作っている要素の働きや効果などについて、どのように歌うかについて独自の表現意図を持っている。	ソルフェージュを音楽性豊かな表現の追求に活用できることに関心をもち、それらの基礎となるコールユーブンゲンや新曲視唱の学習活動に主体的・協働的に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価します。年度末評定については専攻によって評価の比率が異なるため、教科担当より説明します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	題材	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	コールユーブンゲンと新曲視唱プリント　基礎	①コールユーブンゲン No. 60～71 〔カデンツの学習・上属調、下属調への転調〕 ②新曲視唱 〔ニ長調・ロ短調・変ロ長調・ ト短調の課題〕 ③第１回試験 ④試験の結果を振り返り ➢自己分析 ⑤自宅での反復練習による 内容定着を図る(夏休みの 課題) ⑥コールユーブンゲン No. 72～81 〔和声的及び旋律的短音階の練習(♯系)〕 ⑦新曲視唱 〔イ長調・嬰ヘ短調の課題〕 ⑧自宅での反復練習による 内容定着を図る(冬休みの課題)	a: 【知】コールユーブンゲンや新曲視唱に関して、専門的な音楽に関する大切な資質・能力として、音楽理論の知識を基に、副科声楽や声楽専攻実技受講生はその学びから得た知識を基礎とし、管弦打楽器専攻生は基礎的な発声法の知識を理解し、様々な譜表に書かれた楽譜から音楽を形作っている要素を正しく読み取り歌唱することについて理解を深めている。 【技】音楽理論の知識を基に、副科声楽や声楽専攻実技受講生はその学びから得た歌唱技術を基礎とし、管弦打楽器専攻生は基礎的な発声法の技術を身につけ、音高、リズム、拍などを正しく捉え、旋律における音の持つ方向性やフレーズのまとまり、自然な抑揚といった音楽性豊かな表現に発展させ、楽譜に表記されたことを正しく歌唱する技能を身につけて歌唱で表している。 b: 音高、リズム、フレーズのまとまりなど音楽を形作っている要素の働きやその効果などに関する思考力、判断力、表現力を身につけ、それらを正しく捉えて視唱することにとどまらず、それらを音楽性豊かな表現の追求に活用できるものにできるよう、楽譜を見て、その様式に合わせて音楽を形作っている要素の働きや効果などについて、どのように歌うかについて独自の表現意図を持っている。	演奏聴取 実技試験 演奏聴取 実技試験	動画撮影した自分の演奏を振り返る ワークシート	

※令和４年度以降入学生用

後期	発展	⑨コールユーブンゲン No. 82～85 〔和声的及び旋律的短音階の練習(♭系)〕 ⑩新曲視唱 〔変ホ長調・ハ短調の課題〕 ⑪第2回試験 ⑫試験の結果を振り返り ➢自己分析	c: ソルフェージュで学んでいることを各自の専攻実技などに生かすことができる音楽性豊かな表現の追求に応用できることに関心をもち、それらの基礎となるコールユーブンゲンや新曲視唱の学習活動に主体的・協働的に取り組もうとしている。			観察 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度